

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

小澤康宏、小川貴司、中川仁、ほか。内側型変形性膝関節症に対する鍼治療効果について-RCT による刺鍼群と偽鍼群 (鍼管刺激群) の治療効果の比較- 鍼灸 *Osaka* 2003; 18(4): 393-6. 医中誌 ID: 2003202117

1. 目的

変形性膝関節症に対する鍼治療の臨床的効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

古東整形外科、大阪、日本

4. 参加者

2000年9月から2001年11月までに来院した内側型変形性膝関節症患者 60名 (平均年齢 64.9歳、45-89歳)。鍼経験者 27名と未経験者 33名。

5. 介入

Arm 1: 刺鍼群 (鍼経験者 15名)。雀啄により得気を得た後 10分間置鍼

Arm 2: シヤム鍼群 (鍼経験者 12名)。鍼管による叩打の後 10分間の安静

Arm 3: 刺鍼群 (未経験者 15名)。雀啄により得気を得た後 10分間置鍼

Arm 4: シヤム鍼群 (未経験者 18名)。鍼管による叩打の後 10分間の安静

鍼刺激部位は共通で、陰陵泉 (SP9)、内膝眼 (EX-LE 4)、血海 (SP10)、および内側関節裂隙最大圧痛点とした。使用鍼は、ステンレスディスプレイダブル鍼 (0.20×50mm)を用いた。

6. 主なアウトカム評価項目

階段昇降時の痛みの VAS 評価。

7. 主な結果

Arm 1において治療前後の比較で VAS の有意な現象を認めた ($P<0.05$) が、Arm 2では若干の減少がみられたが有意ではなかった。また、鍼未経験者である Arm 3および Arm 4において、いずれも治療前後で有意な VAS の現象を認めた ($P<0.05$)。

8. 結論

鍼治療はシヤム鍼に比べて直後効果があるが、その効果は鍼の経験の有無で異なる。

9. 鍼灸学的言及

鍼の経験者と未経験者に対する効果の違いについて言及がある。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

鍼の膝 OA 患者の痛みに対する効果を、鍼の経験の有無で層別化し、RCT を用いて比較した極めて興味深い臨床試験である。しかし、改善が望まれる点としては、検定方法の記載がないこと、封筒法による割付けとの記載のみで具体的ランダム化の方法が不明であること、直後効果のみの比較に終わっており、治療後の効果の推移が不明な点などが挙げられる。鍼経験の有無による効果の違いは大変面白い事実であり、その要因として考えられる鍼管叩打によるマスキングの成否を明らかにすることは極めて重要である。今後のさらに大規模な、かつより適切なプロトコールに基づく臨床試験の実施が強く望まれる。

12. Abstractor

川喜田健司 2012.1.30